

11 月 8 日 年間第 32 主日

神の価値観

マルコによる福音書 12 章 38 ～ 44 節

³⁸ イエスは教えの中でこう言われた。「律法学者に気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回ることや、広場で挨拶されること、³⁹ 会堂では上席、宴会では上座に座ることを望み、⁴⁰ また、やもめの家を食い物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」

⁴¹ イエスは賽銭箱の向かいに座って、群衆がそれに金を入れる様子を見ておられた。大勢の金持ちがたくさん入れていた。⁴² ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわち一クアドランスを入れた。⁴³ イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はっきりしておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。⁴⁴ 皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」

他の朗読：列王記上 17:10 ～ 16 詩編 146:7 ～ 10 ヘブライ 9:24 ～ 28

Lectio …読む

今日の朗読では、イエスは律法学者たちと富める人たちの行いを、貧しいやもめの行いと対比させています。

イエスは、人々が神殿の賽銭箱の中にお金を入れるのを見ておられました。多くの金持ちの人たちが捧げ物をしますが、イエスが言及するのは貧しいやもめの献金です。金額の点からは彼女の捧げ物は、金持ちの人たちが捧げた金額より小さく、取るに足りないものです。しかし神の目には彼女の捧げ物は誰のものよりも価値があるのです。

イエスは、何故彼女の贈り物が神にとって貴重なものなのかを説明しました。金持ちの人たちは有り余る中から捧げ物をしました。彼らは必要に見合うだけの十分なものを自分のために残していました。そのやもめは持っている全てを入れました。食べ物や、他のどんな物も残してはいませんでした。彼女の捧げ物は、金持ちの人々の捧げ物よりもはるかに大きな犠牲を含んでいました。

マルコは律法学者たちの行いを際立たせるために、やもめの話を使っています。律法がユダヤ人の生活のあらゆる面を導いていました。これらの律法学者たちは聖書に従って、特にレビ記や申命記からの律法的な規則に関していかに生きるべきかを普通の人々に教えていたので、大きな力を持っていました。彼らは尊大さに溢れており、自らの力を濫用していました。長い祈りを行うことで徳と見せかけ、やもめを食い物にし、その遺産を盗んでいる彼らの偽善性を、イエスはたったの一文で際立たせているのです。

Meditatio …黙想する

やもめと律法学者たちの行動は、神に対する態度について何を教えているのでしょうか。ここでの信仰、愛、謙遜の役割は何でしょうか。これから私たちは何を学ぶことが出来るのでしょうか。

この箇所は私たちの捧げ物について、また、私たちの捧げ物に対する神の態度について何を教えてくれているのでしょうか。

この箇所は外見で判断することについて私たちに何を教えてくれていますか。

私たちの行動が私たちの言葉と矛盾するとき、何かを信じていると言って、私たち自身が偽善者に

ならないようにするには、どうすればよいでしょうか。

Oratio …祈る

詩編 146 編は、私たちが誰に信頼を置くべきかについて特に述べています。私たちの信仰を神に置くことが唯一の堅固な基盤です。神は社会での、弱く傷つきやすい人々を気にかけておられます。ですから私たちは、彼らを助けるのに実践的な役割を担うべきです。

Contemplatio …観想する

第一朗読である列王記上 17 章 10 ~ 16 節には、別のやもめが登場します。彼女はパレスチナでも最も貧しい状態にありながら、エリヤを良く世話します。福音書のやもめのように、彼女は神のことを優先していました。神は、エリヤとそのやもめと彼女の息子の両方に必要なものを与えました。

ヘブライ 9 章 24 ~ 28 節は、大祭司であるキリストのテーマを続けます。大祭司キリストは「天幕」、あるいは「天国」に入り、私たちの罪のために完全ないけにえとしてご自身を捧げられます。私たちのために全てを与え、私たちのために全てを勝ち取られました。それゆえ、彼が寛容であったように、私たちも寛容に自分を捧げなければなりません。